



TITLE:

雜録

AUTHOR(S):

CITATION:

雜録. 日本外科宝函 1929, 6(3): 795-802

ISSUE DATE:

1929-05-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200364>

RIGHT:

第三十回日本外科學會駁評

洛東蟠龍

△日本外科學會モ本年第三十回ノ總會ヲ迎フルニ至ツタコトハ慶賀ニ堪ヘナイ所デアル、會期ハ例年ト同ジク四月一日カラ三日間、會場ハ東北帝國大學工學部大講堂デアツタ、本會ガ仙臺デ開カレルノハ今年ガ最初デアル、仙臺ハ未ダ寒ムカラウト皆ガ案ジタ程ノ事モナク三日間打續イタ快晴ニ惠マレテ誠ニ氣持ノヨイ學會氣分ニ浸ルコトガ出來タ、會場モ良ク、設備モ整ヒ、萬端注意ガ行キ届イタモノデアツタ。

△開催地ガ中央カラ隔タツテ居ルカラ會業ハドウデアラウカト思ツテ居タケレドモ來テ見レバ第一日早朝カラ續々詰メカケタ聽衆ハ決シテ半年ニ劣ラヌ賑ヒデ頗ル盛會デアツタ、謹嚴公正ナ會長ノ指圖デ演說ハ順序ヨク靜肅ニ進行シテ時々討論追加モ出ル、又時々若イ單科大學ノ先生モ演壇ニ昇ルヲ見受ケル、老教授モデアルガ特ニ若イ教授ガ自ラ演壇上ノ人トナツテ自己ノ研究事項ヲ發表スル光景ハ實ニ氣持ノヨイモノデアル、若イ教授ヤ助教教授ト云フモノト研究ト云フモノトハ付キモノデアル、自己ノ研究事項モナク碌々トシテ患者ノ世話バカリニ没頭シテ居ル様ナ先生バカリニナツテハ學術ノ進歩ヲ期待スルコトハ出來ナイ。

△サテ本年學會ノ演說中デ頭ニ殘ツタモノニ就イテ感ジノマ、ヲ

書キ下シテ見度イ、貴重ナル業績ノ内容ニ立チ人ツテ惡口ヲ言フ意志ハ毛頭無イ、唯其ノ聞イタ感ジ其マ、ヲ書イテ見度イノデアル。

第二日午前ニハ泌尿系統、新陳代謝、胃腸膽囊等ノ諸問題ガ討議サレ學會中興味アル日デアル、泌尿系統諸問題中大阪佐々木氏ハ細菌ノ腎臟通過ノ關係ヲ時間的數量的ニ正確ニ曲線デ現ハシ從來ヨリモ一步ヲ進メ、金澤加藤氏及慶應戸田氏ハ何レモ脾臟ガ新陳代謝ニ大關係アルコトヲ論ジタノハ興味アルコトデアルガ討論ニモアツタ様ニ此際肝臟ノ態度ヲ對照トシテ考慮スルコトハ蓋シ最モ必要ノコトデアラウ、大阪島氏ノ胃全切除及小腸切除例ノ人體ニ就テノ新陳代謝實驗ハ明年ノ準備的實驗ナル可ク明年多數症例ニ就テノ結論ヲ期待スル次第デアル。次ニ、

三、胃切斷端縫合閉鎖法

京大島瀨外科 大澤達

斯様ナ簡單デ有利ナ方法ガ今日マデ未ダ誰カラモ報告サレテ居ルナカツタトハ不思議デアル、粘膜縫合ヲ行ヒ其上ニ漿膜筋層ヲ互ヒニ縫ヒ合セル丈デヨイト云フノデアル、一寸考ヘルト不安心ノ様デアルガ組織的標本ヲ見ルト既ニ七日目デ完全ナ癒合ヲ遂ゲ且ツ殆ド第一期癒合ヲ營ンデ居ルノデアルカラ安全ナモノデアル、斷端ニ餘裕ガ無クナツテモ此術式ナラバ縫合可能デアルカラ脆イ組織ヲ心配ナシニ全部切り棄テレバヨイダロウ、ソレ故此術式デ噴門痛ノ切除ナドガ續々可能トナリ又一般胃痛切除ノ豫後モズツト良クナルタロ

毫、膽石ノ觀血の手術々式ニ就イテ

京大島潟外科 荒木千里

ウ、人類ノ幸福ノ爲メ此術式ヲ一般ニ普及サセ度イモノデアル、此演説ニ對シテ京城ノ松井教授ハ恩師佐藤先生ヲ擔ギ出シ同先生ガ此術式ニ似タ様ナコトヲ行ハレタコトガアルト云フ様ナ追加ヲサレタガ其様ナコトハ今日マデ何モ發表サレテ居ラズ、眞否サヘモ疑ハシイト思ツタ。何トナレバ此ノ式粘膜縫合ハシユミールデン縫合法デ初メテ十分ニ目的ヲ達スルノデアルガ此ノ縫合法ハ佐藤三吉先生ノ時代ニハ未ダ知ラレテ居ナカツタモノト考ヘル、從ツテ佐藤先生ガ其レヲ行ツタト言フノハ夢デモ見タノデアロウ。

亦大阪ノ岩永教授モ何カ經驗ノアルト言フ様ナ追加ヲナサレタガ筆者ハ大阪ノ地方學會デ大澤博士ガ此ノ問題ヲ最初ニ發表サレタ時居合ハシタ。其際ニハ同教授ハ默ツテ聞イテ居テ此ノ度ハ初メテ經驗シタト云フ様ナ追加ハ少シ異様ニ感ジタ、何時ノ經驗ダロウ?

追加ノ性質ハ兎モアレ内容ハ皆此術式ノ優越セルコトヲ承認シタ様ニ聞エタ。演者ガ結辭デ述べタ様ニ學術上ノ證據ハ絶對ニ文献以外ニ求メルコトガ出來ナイノデカラ今更本家爭ヒハ問題ニナラナイ、演者ハ三十例ニ試ミタサウダガ更ニ數百例ノ成績ヲ發表サレ度イ。又動物實驗ニ於テモ更ニ種々ナル發表ヲ期待スル次第デアル。

膽囊炎ノ發生原因ニ關シ九大膽所氏ハ肝臟障礙ヲ、金澤前田氏ハ自律神經障礙ヲ夫々ノ立場カラ主張シテ居ルノ面白イ。一ツノ問題ガ異ツタ兩方面カラ同時ニ探究サレテ行クコトハ學術ノ進歩ニ有意義ノコトデアル、岡山滋野井氏ノ述べタ膽囊造影法ハ卵黃ニヨル簡單ニシテ安全優秀ナ方法デ推稱ス可ク河石氏ノ追加モ亦本法ノ禮讚デアツタ、次ギニ

大網膜ヲ最初ヨリ術式の計畫のニ縫ヒ付ケテ腹腔ト術野トヲ遮斷スル様ニナシ然ル後不潔ノ操作ニ移ルト云フノデアル、成程斯様ニシサヘスレバ確實ニ膽石手術後ノ危險ヲ腹膜炎ヲ防ギ得ラレルデアロウ、歐米併ビニ本邦ノ其道ノ大家ヲ以テ自任スル人達ガ何故斯ウ云フ有意義ナ改良法ニ氣ヲ付ケナカツタノダロウカ、此方法ハ是非一般ニ普及サセ度イモノデアル、ソウナツタラ他分死亡率モ劇減シ術後ノ經過モズツトヨクナルデアロウ、此演説ノ追加デ新潟ノ中田教授ハエンダーレン教授ヲ引キ合ニ出シテ大網膜使用ニ必要論ヲヤツタノハ少々皮肉ニ聞エタガ演者ガ反駁シタ様ニ、放置スレバ術後當然惹起ス可キ不自然ナル腸管ナドノ癒着ヲ防グ上カラ云ツテモ確

カニ合理的ナ方法ダト云フコトハ誰ガ聞イテ居テモ納得出來タ。併シ此ノ様ナ反對モ亦一興デアル。枯木モ庭ノ賑ヒデアロウカラ。

又、膽石症手術改良法ニ就イテ

岡山醫大 泉 伍朗

手術改良法ト云フ演題デアルカラ何ガナ手術々式ニ就イテ教授獨特ノ改良術式ガ聞ケルコトヲ期待シテ居タガソウデモナクテ寧ロ術後ノ處置ニ就テノ話デアツタコトハ聊カ氣拔ケガシタ、膽汁ノ內導法ト云ツテ術後ニ流苦ヲ用フルト云フコトデアツタガ此ノ可否ニ就テハ多クノ討論ガ出タ通りデ胃内通過ノ流苦ノ効力ハ不確實デカラ寧ロリオンノゾンデヲ使用シタ方が良イト考ヘテ居ル。

四、膽汁排出機轉就中種々胃切除ノ之ニ及ボス影響ニ就イテ

東大青山外科 門倉信胤

問題が極メテ臨床ト密接ノ關係ヲ持ツテ居ルカラ面白イ、此ノ實驗結果カラ見ルト膽汁排出狀態ハ種々ナル胃切除術式ニヨリ胃内容ガフアーテル氏乳頭部ヲ通過スルト否トニ關シ唯初期ニ相違アルノミデ結局如何ナル切除術式ニテモ生理的ニ支障ノナイコトガ解ルノデアル。

四、小兒脊髓痲痺症ノ手術的治驗

岡山醫大 泉 伍朗

山口節郎

本症ノ早期「ラミネクトミー」ヲ行フト云フ新ラシイ試ミデア、本症ハ輕度ノ場合適當ノ處置デ隨分治癒シ得ルモノデアルカラ演者ノ症例ガ果シテ皆手術ニヨラザレバ治癒セザリシヤ否ヤト云フコトガ問題トナル、今後尙多數症例ニ就イテ興味ヲ以ツテ後報ヲ期待スル。

尙、新潟中田教授ハ「ミエログラフィー」ニ就イテ種々詳細ナ知見ヲ述ベ參考トナル所ガ多カツタ。

宿題 腦及頭蓋外科

報告者 齋 藤 眞

愛知醫大ノ齋藤教授ハ多年研究ノ腦及頭蓋外科ニ關スル蘊蓄ヲ傾ケ聽衆ノ期待ニ背カズ、其ノ偉大ナル努力ニ對シテ敬意ヲ表サシメタ、先ヅレントゲン檢診法ニ就イテ詳細ヲ極メタ報告アリ、次ニ各論ニ入り大脳腫瘍、後頭蓋窩腫瘍、腦下垂體腫瘍、癲癇症、頭蓋外傷、腦水腫、腦ヘルニア、三叉神經痛ノ順序ニ興味アル演説ガアリ、又腦腫瘍剔出ノ二患者ヲモ供覽サレタ、廣汎精細ニ亘レントゲン檢診法ノ研究ハ實ニ同教授ノ努力ノ結晶デアツテ腦外科ノ基礎トナ

ルモノデアアル、此研究ニヨツテ我國腦外科ノ扉が開カレタト云フテヨイ、サハレ我國腦外科ノ臨床ハ歐米ニ比スレバ尙極メテ初歩デア、今日現ハレタ臨床例ノ大部分ハ癲癇症デアツテ古ク京都ノ伊藤名譽教授ノ臨床ニテ研究報告サレタモノ、延長タル觀ガアツタ、勿論至難ナル此方面ノ發達ニハ尙幾多ノ努力ヲ要スル、扉が開カレタモ堂ニ入ル者ガ無ケレバ日本外科ノ恥デアロウ、シツカリヤラズバナルマイ。

× × × × ×

△本年學會ノ演題ヲ通覽シテ感ズルコトハ純粹實驗的ノ演題ハ極メテ少數トナリ殆ド全部臨床的若クハ臨床ニ密接ナ關係アル問題ノミトナツタコトハ學會ノ爲メ喜バシイ現象デアアル、問題ノ性質カラ觀察スルト殆ド全般ニ亘ツテ居ルト云ヘルガ矢張り內臟外科ニ關スルモノガ大部分デアツタ、本年ノ宿題ノ關係デ腦ニ關スル問題ガ例年ニ比シ多カツタコトハ目ニ付イテ居タ、輸血ニ關スル問題モ本年跡ヲ絶タズ、骨ニ關スル問題ガ例年ヨリ稍々多カツタ、新陳代謝ガ少シ顯ラ出シテ居タコトハ新ラシイ現象ゲト云ヘヨウ、外科手術ニ關スル問題モ數題アツタ、而シテ各々ノ演題ニ就イテ今頭ニ殘サレタモノヲ辿ツテ見ルニ實驗的方面デハ次ノ諸問題デアアル。

一、肉芽創傷治癒ノ生物學的考察

四、血液内ニ注射セル「ビリルビン」量ノ消失時間ニ及ボス各種

麻酔藥ノ影響ニ就イテ

ハ、異型者間輸血法則ニ關スル新解釋

二、瓦斯代謝測定成績ニ現ハレタル輸血ノ効果ニ就テ

二、自家血液注射ノ細菌凝集反應ニ及ボス影響ニ就テ

三、急性化膿性炎症ニ對スルレントゲン線治療ニ就テ

三、追加「アチドーゼ」ト細菌感染ニ對スル抵抗力ノ實驗的研究
追加、細菌性疾患ニ對スル免疫の治療ニ際シテ免疫元ノ注射法ト効力トノ關係ニ就テ

四、追加、急性化膿性骨髓炎ニ於ケル血液中脂肪滴證明ノ早期診斷の意義ニ就テ

五、追加、骨折治療時ニ於ケル生化學的研究

三〇、遊離骨膜移植ノ實驗的研究

三一、大網膜癒着ニ關スル實驗的研究

三二、細菌ノ腎臟通過ニ關スル時間的竝ニ數量的考察

三三、膽囊炎ノ發生ニ關スル研究

三四、膽汁排出機轉就中胃切除ノ之ニ及ボス影響ニ就テ

宿題追加三、實驗的腦膜炎ニ對スル腦洗滌ノ價值

四九、「イレウス」ノ死因ニ關スル實驗的研究

臨床の方面デハ次ノ諸問題ヲ舉ゲルコトガ出來ル、

三、上膊神經叢麻痺法、就中鎖骨下麻痺法ニ就テ

二、連鎖球菌「ワクチン」及同「コクチゲン」ニ依ル丹毒治療成績

ノ比較

五、外科的絲狀菌性疾患ノ三例

六、移動性内臟疾患ノ外科

三、胃切斷端縫合閉鎖法ニ就テ

三、膽石ノ觀血の手術式ニ就テ

四、小兒脊髓麻痺ノ手術的治療

四、「ミエログラフィー」ト脊髓外科ニ就テ

宿題追加六、頭部外傷後遺症ト「エンツエフアログラフィー」

五、糞瘻手術々式ノ一新法ニ就テ

△演題制限ノ外科學會デハ流石ニ數年前ニ比ベテ演題ガ精選サレテ居ル、一教室カラ競ツテ數多クノ演題ヲ出スト云フ様ナ傾向モ比較的ニ少ナイ様デアル、演題ノ數ナドハ頭ヲ置カズ質ニ重キヲ置ク様ニシ、出來ルコトナラ各教室カラ思ヒ切ツテ、二題宛以上出サヌコト、ナシ本年初メテ試ミタ特別演說位ノ程度ノモノダケニシタラ如何デアロウカ。

△追加討論ノ出タノハ概シテ相當注目サレタ演題ニ於テバアツタ、本年モ相當ニ多カツタケレドモ聽衆ヲシテ思ハズ緊張セシメル程ノ痛快ナモノ、無カツタコトハ稍々淋シカツタ、先年京大外科カラ出タ平壓開胸術ノ時ノ様ナ實驗ト臨床トノ兩方面ニ亘ツタ華々シイ論戰ハ再び見ルコトガ出來ナイ、尤モ本年ノ「テーマ」ニハソレ丈ケ大キナ議論ニナリソウナモノガ無カツタカラデモアロウ、石川教授ノ演說デハ聽ク人カラハモット討論ガ突キ進ンデ欲シカツタ、何故ナレバ石川教授ノ演說ニハ獨斷的ト思ハル、點ガアツタカラデアル、此討論者ハ隨分討論ノ材料ヲ持ツテ居ルラシカツタガ脱兎ノ如クニ論鋒ヲ收メテシマツタノハ惜シイ事デアツタ、教授デアロウガ特別演說者デアロウガ眞理ノ前ニ遠慮ハ要ラナイ、學會ハ眞理ノ討究場デナケレバナラナイ、眞理ノ前ニハ徹頭徹尾所信ヲ貫ク可キデアルアノ様ナ龍頭蛇尾ノ討論ヲスル位ナラ最初カラヤラヌガヨイ。
△眞面目ヲ缺イタ追加討論ヲスルコトハ學術ヲ冒瀆スルニ等シイ行爲デアル、肯綮ニ當ラナイ追加討論ヲヤルコトハマダ罪ガナイト

シテモ所謂追加センガタメノ追加ト云フ様ナモノガ其レデアル、故意又ハ計畫的若クハ賣名の又ハ中傷的ノ追加討論ガソレデアル、本年京大大澤助教ノ述べタ胃切斷縫合閉鎖ノ新法ニ對スル追加ハ聽衆ヲ瞶瞶セシメタ一例デアツタ、併シ庭ニモ枯樹、學會ニハ枯追加ト枯討論モ多少アル方ガヨカロウ。

△追加討論ノ際ニ本年會長ノ取ラレタ態度ニハ敬服スル、ドンナ追加ガアツテモ之レニ對シテ演者ノ方ニ必ラズ何事ヲカ述べサセテ居タ、コレハ是非共斯クアラネバナラヌト思フ、會長ガ常ニ座長席ニアツテドノ演者ニ對シテモ一齊ニ公平デアルコト程聽衆ニトツテ氣持ノヨイコトハナイ、本年杉村會長ノ態度ハ實ニ公正ノ典型ト云ハヨウ。

△今年ノ討論ノ中ニ膽石手術ノ際ニ大網膜ヲ術式的ニ使用スルト言フ演說ノ後デエンダーレン先生ノコトヲ引張り出シテエンダーレンハ大網膜ナドヲ使ツテ居ラナイカラ其様ナ方法ハ無用ダト言フ様ナ事ヲ言フテ居ル人ガアツタガ此レハ餘リニ獨逸カブレシ過ギタ枯討論デ枝振リノ醜惡ナ事限リナシ。

エンダーレンガ一體何カ。手ノ人カモ知レヌガ大シタ頭ノ人デ無イコトハ一九二二年ホツツト共同ノ膽石患者統計ノ觀察ノ仕方デモ、ワカツテ居ル。

由來日本人ハ模倣ノ國民ダト言フ定評ノアル位獨創ニ乏シイ、此ノ議論ハ如實ニ日東猿猴國ノ弱點ヲ曝露シタ情ナイモノデアル、何時迄模倣ノ時代デモアルマイ、外國人ノ手術ヲソツクリ其儘眞似シテ何等ノ改良モ企テ得ズ、ヤレ死亡率ガ何「パーセント」ニナツタカ、ヤレ遠隔成績ガ何ウノコウノト言フ水ノ混ツタ統計(？)バカリ

苦ニシテ居ル様デハ我が國ノ學術ニハ進歩モ何モ望マレナイ。

日本ノ學生ガ若シ此ノ様ナ鹽梅式ニ指導サレテ居ルトシタラ日本ノ科學ハ永久ニ模倣ニ止マルデアロウ、

治療方針デモ、手術方法デモ、病理デモ、床候學デモ、大ナリ小ナリ獨創的ノ發表ヲシテ欲シイモノデアル。

山高キガ故ニ貴カラズ、樹アルヲ以テ貴シトスト爲スナラバ學者ハ『大學教授タルガ故ニ尊カラズ、獨創アルヲ以テ尊シトナス』トヤ申サン哉。

△學會ノ會長ト言フ者ハ原則トシテ寸時モ座長席ヲ去ル可カラザルモノダト思フ、學會ハ學術討議ノ眞劔ナル壇場デアツテ會長ハコレガ最高指揮者ナレバ眞ニ學術ヲ尊ビ、責任ヲ感ズル以上、居眠リヲシタリ座長席ヲ放レタリスルコトハ本義デハアルマイ、大小便モ其ノ積リデスル位ニセズバナルマイ、

本年杉村會長ガ三日間終始一貫、一步モ一秒モ座長席ヲ去ラズ、其ノ神聖ナル職責ヲ完ウセラレタコトハ杉村會長其人ノ人格ノ然ラシムル所デアルガ吾人ハ其ノ自覺的ナ熱心ナル努力ニ對シテ誠ニ感謝ニ堪ヘナイ次第デアツタ。

△先年京都デ外科學會ノアツタトキ鳥潟會長ニ依ツテ初メテ其ノ範ガ示サレタノデアツタガ吾人ハ外科學會ニ斯クモ高潔ナル先覺者ヲ數クコトヲ誇リトシ且愉快ニ感ズルノデアル。

明年ノ會長ハ磯部教授デアルガ屹度杉村會長ノ例ニ倣フデアロウト思ウ。醫事通信新聞ナドノ記事ハ意トスルニ足ラヌモノデアル。

△新聞ノコトデ思ヒ起スコトハ先年福岡デ外科學會ノ開カレタ時其地所在ノ總テノ普通新聞及ビ其地ニ出張シタ總テノ醫事新聞ハ筆

京大 外科雜誌抄讀會

一月二十八日午後六時半於樂友會館

演題

一、鼠蹊舉丸手術ニ就テ

二、移動性脾臟囊腫ノ一例

三、特殊注意ノ下ニナセル「エーテル」點滴直腸麻

醉ニ關スル實驗的及臨床的研究

四、外傷性浮腫ニ就テ

五、小兒期ニ於ケル臍胸治療法ノ理化學的見地

六、手根骨ノ選擇形成ニ就テ

綜説

血友病

特別講演

歐米視察談

二月二十八日 午後六時 於樂友會館

演題

一、氣管枝喘息手術批判

二、癌ノ血清療法

三、施術胃内上行性重積ニ就テノ實驗的補遺

四、頭蓋腔内腫瘍ノ電氣的手術法

五、外傷後ニ於ケル横行結腸間膜萎縮ノ一例

六、慢性骨髓瘍ノ臨床的意義

七、肝臟海綿狀血管腫

ヲ揃ヘテ其地ノ大學カラ出タ演說ノミニ對シテ特筆大書稱讃ヲ敢テシ、他ノ演說ニ對シテハ默殺又ハ惡評ニ努メテ居タ形跡歴然タルモノガアツテ吾々他カラノ出席者ニハ非常ニ不快ダツタコトヲ記憶シテ居ル。何ノ様ニ口服ノ御馳走ヲシテモ何ノ様ニ金ノカ、ツタ招待ヲシテモ肝腎ノ學術研究ニ對シテ斯クノ如キ有様デハ御馳走ハ御馳走ニナラヌ。學者ニ對スル學者ノ御馳走ノ獻立ハ何ノ様ナモノデナケレバナラヌカト言フ事ハ眞ノ學者ニシテ初メテ其レヲ理解シ又眞ノ學者ニシテ初メテ其レヲ賞味スルコトガ出來ルモノデアル。本年仙臺ノ學會ニ於テハ吾々遠方カラノ來會者ハ全ク第一等ノ御馳走ヲ杉村會長カラ受ケタ譯デアル。

△如何様ナ意味ニ於テモ學會ガ一ツノ惡宣傳機關トシテ利用サレル様ナ氣分アリトスレバ、其レハ最早墮落ト認メナケレバナラナイ、甚ダ遺憾ナガラ吾ガ外科學會ニ近來斯カル空氣斷ジテ無シト主張スルハ聊カ躊躇サレル。吾人ハ一致シテ斯カル空氣ヲ排撃打破シナケレバナラヌ。

先年來他ノ學會ニ卒先シテ演題ノ制限ヲ實行シタリ、特別演說ヲ設ケタリシタ先學者ヤ先驅者ヲ網羅シテ居ル吾ガ日本外科學會幹部諸公ノ猛省ヲ促スモノデアル。

△明年ノ學會ガ派手、惡宣傳等ノ第一ノ流行タル大阪デ開催サレル事デアルカラ質實ナ磯部會長モ仲々骨ガ折レルコトデアロウト今カラ懸念サレルノデ、以上述べタ注意ハ益々意義ヲ爲スデアロウ。會員モ充分注意シテ學術ヲ凌辱サレヌ様ニ覺悟スルガヨカロウ。

(三元)

神部君	黃君	鈴木君	加藤君	高島君	赤木君	來須講師	勝呂博士	麻生君	横田君	神原君	荒木君	顏木君	佐々木君	嘉ノ海君
-----	----	-----	-----	-----	-----	------	------	-----	-----	-----	-----	-----	------	------

- 八、「バラチフス」Bニ於ケル穿孔性腹膜炎ノ一例
 - 九、麻痺性「イレウス」ニ對スル腰椎麻醉
 - 一〇、「イレウス」診斷ニ際シテ考慮スベキ疾患
 - 二、僧侶筋缺損症並ニソノ背椎側屈トノ關係
 - 三、耳下腺癭閉鎖ノ一新法
 - 三、斜前胃腸吻合術
 - 四、精系靜脈瘤ニ對スル睾丸固定術
- 三月十九日 午後六時半 於樂友會館

演 題

- 一、腎盂乳嘴樣腺瘤
- 二、腎 臟 逆 壓
- 三、創傷治癒ノ抗張力測定
- 四、ジャクソン氏膜ニ就テ
- 五、虫樣突起炎ト婦人生殖器病トノ關係
- 六、手及腕關節ニ於テ腱ニ來ル癒着ノ豫防
- 七、部分的胃捻轉ノ診斷及治療
- 八、惡性腫瘍ノ「コロイド」鉛療法
- 九、手術後ノ「インシュリン」使用ノ危險
- 一〇、所謂「ヒヨレミー」性出血素因ノ臨床的意義
- 二、經皮的免疫法ニ就テ
- 三、小腸ノ粘膜炎室トソノ外科的意義
- 三、小兒期ニ於ケル虫樣突起炎ニ就テ
- 四、内分泌腺ノ注射の移植

八	河	春	武	黃	木	北	福	勝	藤	五	濱	淺	山	田	河	佐	春	內	荒	松
田	田	田	野	君	口	村	富	呂	浪	郎	川	野	本	仲	野	藤	野	田	木	山
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

第二十八回近畿外科集談會日程

六月二日午前正九時

三重縣津市觀音境內銀行集會所ニ於テ開催ノ筈

演 題

- 一、蛔虫ノ外科的疾患ニ對スル意義
- 二、特有ナル腎臟腫瘍ノ二例
- 三、頭蓋外科ノ經驗
- 四、頭部外傷ニ關スル實驗的研究殊ニ腦震盪ニ就テ
- 五、「ミクリッツ氏」腫瘍ノ一例ニ就テ
- 六、乳腺纖維肉腫ノ一例
- 七、甲狀腺機能ト結核感染ニ關スル實驗的研究
- 八、蛔虫ニヨル「腹壁腫瘍」ノ一例
- 九、胃癌及胃潰瘍ニ於ケル遠隔胃粘膜ノ組織的變化
- 一〇、腸管囊腫樣氣腫ノ一例ニ就テ
- 二、腸管ニ發生セル淋巴囊腫ノ臨床例ニ就テ
- 三、慢性纖維性包裡性腹膜炎
- 三、囊腫腎ノ化膿穿ニ因スル汎發性腹膜炎ノ一例
- 四、所謂瓦斯腹膜炎ニ就テ

松	松	松	京	京	大	大	大	大	京	滋	京	大	伏
阪	阪	阪	都	都	阪	阪	阪	阪	都	賀	都	阪	見
久	久	久	濱	濱	瀧	瀧	瀧	瀧	野	縣	野	堀	阿
留	留	留	田	田	内	内	内	内	田	宮	田	部	部
成	成	成	稻	稻	秋	秋	秋	秋	登	路	登	貞	貞
三	三	三	積	積	治	治	治	治	久	善	武	雄	雄

- 一五、穿孔性腹膜炎ノ統計的觀察 京都 矢田貝 薫
一六、小腸内葡萄糖吸收ニ及ボス植物性神經ノ影響 大阪 宇佐美五郎
一七、直腸脫ノ治療法ニ就テ 京都 荒木千里
一八、直腸切斷後ノ創傷感染ノ豫防ニ就テ 大阪 勝部育郎
一九、「膀胱腫」瘻ノ手術的治驗例 大阪 布施立治郎
二〇、水瘻ノ原因ニ對スル臨床的考察 大垣 吉益雄太郎
二一、本邦人心臟ノ「オルトダイアグラム」ニ就テ 大阪 中川三郎
二二、急性肺炎ニ併發セル大動脈血栓ノ一例 大阪 鹿岡廉平
二三、外傷性大腿動脈瘤ノ一例(標本供覽) 中津川 藤網晨一
二四、異常ナル經過ヲ取リシリツトル氏「ヘルニア」嵌頓ノ一例 大阪 加來恕助
二五、夜尿症ノ療法 大阪 富士原誠一
二六、副睪丸結核生成ニ關スル實驗的研究 (第一報) 大阪 石田清夫
二七、精系捻轉症ノ二例 京都 山本明治
二八、運動ガ實驗的「バーロー」氏病骨變化ニ及ボス影響ニ就テ(第一回報告) 大阪 渡邊一九
二九、肋軟骨ノ外科學的特異性ニ就テ 大阪 宮崎松記
三〇、先天性脊椎側彎症ニ就テ 大阪 貴志周一郎
三一、膝關節「コンデイロマトーゼ」ノ標本供覽 大阪 加來恕助
三二、廣汎ナル火傷ニ對スル輸血ノ價值 京都 今津九右衛門

- 三三、血中「カルシウム」量ノ消長ニ就テ 大阪 樋口 巖
三四、日露戰役ニ於ケル海戰ノ創傷ニ就テ 津 伊藤顯徳
三五、再ビチールシユ氏植皮術ニ就テ 大阪 中村一郎
三六、「エリトロメラルギー」ノ治療法ニ就テ 京都 五郎川正己
三七、手指外傷ノ治療法 羽津 高木四郎
三八、蟲様突起炎ノ一異例(標本供覽) 津 藤森鶴龜
三九、肺臟外科ニ對スル平壓開胸術ノ經驗 津 藤森鶴龜
四〇、橫隔膜下膿瘍ニ就テ (午前十時ヨリ) 磯部 喜右衛門
四一、輸血法ニ於ケル進步ト臨床(午後一時ヨリ) 愛知醫科大學教授 醫學博士 齋 藤 眞

鳥瀉教授渡歐

鳥瀉教授ハ萬國外科學會ヘ日本代表トシテ御出席ノ爲メ六月十六日シベリア經由ニテ御渡歐ノ筈

哭先師伊藤隼三博士

廖 寒 松

東天一夜隕長庚。風雨淒々變晦明。橘井甘泉流萬派。杏林春澤解三醒。人思良相功助遠。我哭恩師血淚傾。絳帳遙睽成永訣。輓歌欲奏不成聲。醫界聲名擅五州。巫公鴻術世難求。鮮顛理腦眞神技。截胃穿胸類寡儔。薄植受知添愧色。師恩遲報鬱心憂。哀傳未獲靈前哭。空望扶桑涕泗流。右ハ上海ニ於テ中和醫院ヲ經營セラル、醫學博士廖寒松氏ヨリ鳥瀉教授宛寄セラレタルモノナリ